



「読書活動のススメ」



今年度も「読書ノート」の取組をすすめます。

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力や想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で、欠くことのできないものです。本校においても、毎週木曜日を朝読書の時間（8:30～8:45）として、全校児童で取組をすすめています。また、学期に一度、おはなしエルマーさんによる読み聞かせ、5月には「絵の本ひろば」と、子どもたちが読書に親しむ機会を設けています。

子どもたちには、「読まされる読書」ではなく、自ら「読みたい」「知りたい」「考えたい」という思いをもった読書をしてほしいと考えています。子どもたちが読書活動を通じて、豊かな人間性（本校の教育目標にも「心豊かな」という言葉があります。）や感性、読解力などが育むことができるように読書活動を推進していきます。

読書の効果として、次の6点が身につくと言われています。

- ① 記憶力 ② 集中力 ③ 脳の活性化 ④ 心の落ち着き ⑤ 会話力

また、独立行政法人国立青少年教育振興機構が高等学校2年生、中学校2年生（約21,000人）を対象にした「読書活動と意識や能力の関係を分析した調査」の結果によると、次のように傾向が見られたということです。

子どもの頃（就学前・小学校・中学校時代）の読書活動が豊富であるほど、

- 「朝食を『毎日食べる』」と回答した割合が高い。
- 「なりたい職業、やってみたい仕事がある」と回答した割合が高い。



今年度も、大阪読書推進会が読書推進のため、「読書ノート」を配付している活動に申し込んだところ、児童数の「読書ノート」をいただくことができました。この「読書ノート」には、読書をしたら、読んだ本のタイトルや読んだ日付、感じたことなどを書いていきます。1～4年生は、100冊、5・6年生は50冊読むと、希望する方は達成カードを大阪読書推進会へ提出し、朝日新聞デジタルの達成者名簿に氏名が掲載されます。（5・6年生については、朝日新聞にも掲載されます。）氏名掲載を希望しない児童についても学校で表彰状を渡す予定です。詳細につきましては、締切日近くに対象者に案内文を配付いたします。

本を読む子は

やさしい気持ち

言葉がいっぱい

知識がいっぱい

正しい力が

楽しい世界が

心にたまる

心にたまる

心にたまる

心にたまる

心にたまる

心にたまる

（以前勤めていた学校の図書館に
掲示されていた言葉です。）

読書ノート

「本のタイトル」と「読み終わった日」は必ず書いてきてください。

10冊ごとにシールをほっちゅうよ!!

10冊読んだら、校長室へ!!

校長先生がシールをはります! めざせ! 150冊!

校長室のドアが開いている20分休み・昼休みに来てね。(ドアが開いているときは、ごめんね!) 「失礼します。」とあいさつできるかな。待ってるよ!

子どもたちが読書ノートを見せに来てくれるのを楽しみにしています!